

平成 27 年度版「みんなと学ぶ 小学校 国語」六年 年間指導計画作成資料

【構成】

各ページとも表形式で示した。上部に表組みの項目を置いてあるので、それに依ってご覧いただきたい。

【凡例】

配 当 月 ……目安としての配当月を示した。

時 数 ……単元・教材ごとの時数を示した。

単 元 ・ 教 材 ……単元名及び教材名を示し、その下に時数の配分を丸数字で示した。
例（書①読①）…書くこと 1 時間，読むこと 1 時間の配分を示す。

■ 学 習 目 標 ……単元及び教材を扱う際に目標とすることを示した。

<学習指導要領との対応> ……該当する学習指導要領の領域・項目・指導事項を示した。

◎印は重点項目

話聞…話すこと・聞くこと

書 ……書くこと

読 ……読むこと

伝国…伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

学 習 活 動 ……単元及び教材の主たる学習活動を示した。数字は学習の順序を想定したものにしてある。

評 価 規 準 ……教材ごとに該当する学習指導要領の項目に合わせて示した。

【関く】…国語への関心・意欲・態度

【話聞】…話すこと・聞くこと

【書く】…書くこと

【読む】…読むこと

【伝国】…伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

平成 27 年度版「みんなと学ぶ 小学校 国語」六年上巻

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準		
		<学習指導要領との対応>				
4	1	<p>「出発」 (読①) ■様子を思い浮かべながら感じ取ったことが伝わるように、音読を工夫することができる。</p> <p>◎読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p>	<p>①音読し、様子を考える。 ②作者の思いが表れている表現について考える。 ③感じたことや考えたことを大切にしながら、音読を工夫する。</p>	<p>【関心】自分の考えをもちながら、詩を読もうとしている。 【読む】自分の思いや考えが伝わるように音読を工夫している。 【伝国】詩の表現、言葉の使い方の特徴に気付いている。</p>		
	1	<p>学級作り 「プラス思考でアドバイス」 (話聞①) ■相手の状況を思いながら、話題に沿った自分の考えを話すことができる。</p> <p>○話聞(1)ア：考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。 ○話聞(1)イ：目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ◎話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ○話聞(1)オ：互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。 ○伝国イ(オ)：文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p>			<p>①各自が「小さな悩み」をカードに書く。 ②グループで話題を選び、課題についての原因を付箋紙に書き込み、整理しながら話し合う。 ③グループでまとめられた原因に対応させながら、対策案を話し合う。</p>	<p>【関心】互いに尊重し合い、場に応じて適切に話したり聞いたりしようとしている。 【話聞】友達に相談したいことから、話題を決めている。 【話聞】話し手の意図をとらえながら聞き、自分の立場を意識して考えを交えながら、適切な言葉遣いで話している。 【伝国】言葉のつなげ方、伝わり方を意識している。</p>
	2	<p>みんなで本を楽しもう 「服を着たゾウ」 (読①話聞①) ■物語世界のおもしろさを展開や表現などからとらえた感想を基に、読書感想交流会を開いて交流し合うことができる。</p> <p>◎読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○話聞(1)イ：目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。</p>				

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
4	5	<p>1. 主題を考えよう 「遠眼鏡の海」 (読⑤) ■物語の一つ一つの要素や物語全体が象徴する意味を読み、互いの読みや考えを交流し合って主題をとらえることができる。</p> <p>○読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ◎読(1)エ：登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ◎読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○伝国イ(ケ)：比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p>	<p>①四つに場面分けし、それぞれに題名を付けることで、物語の全体を見通す。 ②物語の不思議なところについて話し合う。 ③象徴する言葉の意味について考える。 ④物語の主題をまとめ、交流し合う。</p>	<p>【関心】物語の不思議なところを考えながら読もうとしている。 【読む】物語の一つ一つの要素や物語全体が象徴する意味について考え、叙述を基にして主題を読んでいる。 【読む】互いの読みや考えを出し合い、交流し合っている。 【読む】物語に描かれているものを考えながら音読している。 【伝国】比喩表現の工夫に気付いている。</p>
5	2	<p>言葉のきまり 1 「前後のつながりを示す言葉」 (言①書①) ■接続語の働きを知り、適切に使うとともに、文と文との関係を理解することができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国イ(オ)：文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。</p>	<p>①接続語の働きを、例文を基に理解する。 ②前後の事柄から考えて、言葉のつながりをとらえる。 ③接続語を用いた文を作り、働きや文と文との関係を確かめる。</p>	<p>【関心】接続語の働きに対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】接続語の効果を考えて文を作っている。 【伝国】接続語の働きについて知り、適切に使うことができている。</p>
	1	<p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか確かめたり直したりしている。 【伝国】六年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
5	1	漢字の部屋1 「漢字の成り立ち」 (言①) ■漢字の成り立ちについて理解を深めることができる。 ○伝国イ(エ)：語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 ○伝国ウ(イ)：仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	①象形文字や指事文字、会意文字、形声文字についてとらえる。 ②辞典を使って、漢字の成り立ちを調べる。	【関心】「象形」「指事」「会意」「形声」のそれぞれの漢字の由来に対する関心を深め、漢字辞典などを使って調べようとしている。 【伝国】漢字の成り立ちに目を向け、それぞれの特徴を辞典などで確認し理解している。
	1	自分の見方を持つ 「インターネット・コミュニケーション」 (読①) ■「インターネット・コミュニケーション」に対する筆者の主張を読み、メディアへの自分の見方や考え方を広げることができる。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○読(2)イ：自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。	①本文を読み、より良い「インターネット・コミュニケーション」のやりとりのしかたやそこでの「落とし穴」についてとらえる。 ②筆者の考えに対する自分の考えを出し合ったり、まとめたりする。	【関心】「インターネット・コミュニケーション」に関心を持ち、情報モラルについて自分の考えを広げようとしている。 【読む】「インターネット・コミュニケーション」に対する筆者の主張を読み、メディアに対する自分の考えを深めたり広げたりしている。 【伝国】インターネットを利用する際の言葉の使い方に気付き、関心をもっている。
	2	「自分の脳を自分で育てる」を読む前に 「発明・発見は、はてなから」 (読②) ■筆者の主張やそれを支える事例を読み、筆者の述べ方をとらえることができる。 ○読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。	①筆者の主張をとらえる。 ②それを支える事例をとらえる。 ③それぞれの事例は、何がきっかけになっているかをとらえる。	【関心】先人たちのささいな疑問に対する情熱や努力の結果として、発明があり現代の生活がある、とする筆者の主張に関心を持ち、読もうとしている。 【読む】筆者の主張と、それを支える事例の関係をとらえながら読んでいる。 【伝国】事例を挙げて説得しようとしている文章の構成に気付いている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
6	5	<p>2. 脳の働きを知り, 自分自身に生かそう 「自分の脳を自分で育てる」 (読④話聞①)</p> <p>■筆者の考えのもとになっている事実と筆者の考えとを関係付けながら, 要旨をとらえることができる。</p> <p>■読み取ったことを基に, 自分の考えをまとめ, 伝え合うことができる。</p> <p>○話聞(1)エ: 話し手の意図をとらえながら聞き, 自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。</p> <p>○読(1)イ: 目的に応じて, 本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。</p> <p>◎読(1)ウ: 目的に応じて, 文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり, 事実と感想, 意見などの関係を押さえ, 自分の考えを明確にしながらかんだりすること。</p> <p>○読(1)オ: 本や文章を読んで考えたことを発表し合い, 自分の考えを広げたり深めたりすること。</p> <p>○読(1)カ: 目的に応じて, 複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。</p> <p>○読(2)イ: 自分の課題を解決するために, 意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。</p> <p>○伝国イ(オ): 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。</p>	<p>①「前頭前野」などの定義や筆者の主張をとらえる。</p> <p>②考えの述べ方について文章の構成を確かめる。</p> <p>③筆者の主張と, それにいたるまでの実験やそれらの考察を押さえながら, 要旨をとらえる。</p> <p>④要旨に対する自分の考えを書き, 伝え合う。</p>	<p>【関心】脳の働きや筆者の主張に関心をもつとともに, 自分自身のこれからの生活に生かそうとしている。</p> <p>【話聞】めいめいの考えをはっきりさせながら伝え合い, 自分の考えを広めたり深めたりしている。</p> <p>【読む】筆者の主張と, それにいたるまでの実験及び, それらの考察を押さえながら, 要旨をとらえて読んでいる。</p> <p>【読む】読み取ったことを基に, 自分のできることを考え, 発表し合っている。</p> <p>【伝国】考察していくための接続詞や指示語に注目し, 語句同士の関係に気付いている。</p>
	2	<p>言葉のいずみ 1 「相手や場面に応じた言葉」 (言①書①)</p> <p>■話し言葉と書き言葉の特質や使い方, 敬意表現についてとらえることができる。</p> <p>○書(1)オ: 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。</p> <p>◎伝国イ(ア): 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。</p> <p>○伝国イ(カ): 語感, 言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> <p>○伝国イ(ク): 日常よく使われる敬語の使い方慣れること。</p>	<p>①本文を読んで, 話し言葉と書き言葉の特質や違いを知る。</p> <p>②書き言葉を, 相手意識をもちながら, 話し言葉に言い換える。</p> <p>③敬意表現についてとらえ, 書き換えをする。</p> <p>④書き換えた文が適正なものになっているか確かめる。</p>	<p>【関心】相手や場面に応じた言葉に関心をもち, 学習を進めようとしている。</p> <p>【書く】書き換えた文が適正なものになっているか確かめたり直したりしている。</p> <p>【伝国】話し言葉や書き言葉, 敬意表現について理解し, それらを適切に言い換えたり書き換えたりしている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
6	7	<p>3. すいせんスピーチをしよう 「すいせんします。この委員会活動」 (話聞⑦) ■相手意識や目的意識をもって、効果的な構成を考えながら委員会の紹介をすることができる。</p> <p>○話聞(1)ア：考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。 ◎話聞(1)イ：目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ○話聞(1)ウ：共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。 ○話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ○話聞(1)オ：互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。 ○話聞(2)ウ：事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。</p>	<p>①活動内容を書き出して整理する。 ②構成メモを作り、スピーチの構成を考える。 ③スピーチ台本をまとめる。 ④練習を聞き合って、助言し合う。 ⑤発表会をする。</p>	<p>【関心】委員会活動やその魅力に関心をもち、聞き手がその委員会で活動してみたいと思ってくれるように話したり、助言し合ったりしようとしている。 【話聞】紹介したい委員会の活動や魅力を構成メモに整理し、それらが効果的に伝わるように構成を工夫しながら発表している。 【話聞】提案者の意図をとらえながら聞き、考えがより明確に伝わるようにするためにはどうすればよいかを、立場を意識しながら助言し合っている。 【話聞】場に応じた適切な言葉遣いを考えながら、共通語を用いて発表している。 【伝国】話の構成による伝わり方の違いをとらえている。</p>
7	1	<p>言葉のいずみ2 「日本語の表記」 (言①) ■日本語の表記のしかたについての理解を深めることができる。</p> <p>○伝国イ(イ)：時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 ○伝国イ(ウ)：送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ○伝国イ(エ)：語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 ◎伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p>	<p>①本文を読み、平仮名と片仮名の使い分け、漢字仮名交じり文や日本語の文字の歴史について理解する。 ②読みやすい表記のために、句読点などの符号が生み出されたことを理解する。</p>	<p>【関心】日本語の表記に対する関心を深め、文字の歴史や適切な使い方を知ろうとしている。 【伝国】平仮名・片仮名の使い分け、漢字仮名交じり文や日本語の文字の時代による変化の歴史、読みやすい表記のしかたなどをとらえている。</p>
	1	<p>漢字の部屋2 「漢字の音を表す部分・意味を表す部分」 (言①) ■形声文字における音符と部首との関係を理解することができる。</p> <p>◎伝国ウ(イ)：仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p>		

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
7	3	書き方・まとめ方 「文章構成の効果を考える①」 (書③) ■効果的な文章構成のしかたを理解することができる。 ○書(1)イ：自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ○書(1)ウ：事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ◎書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎書(1)カ：書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うこと。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。	①意見文における文章構成のしかたを理解し、段落相互の関係をとらえる。 ②頭括型や尾括型、双括型の違いを理解し、効果的な文章構成を意識しながら簡単な文章を書く。	【関心】 自分の考えを効果的に伝えるための文章構成のしかたに関心をもち、簡単な文章を書こうとしている。 【書く】 読み手に、自分の考えや意見が効果的に伝わるようアドバイスをし合い、構成を工夫して文章を書いている。 【伝国】 文章には様々な構成があることに気付いている。
	1	新しい漢字 (書①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習の漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。	【関心】 漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】 適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】 六年に配当されている漢字を読み書きしている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
7	7	<p>4. 読書を楽しもう 「フリードルとテレジンの小さな画家たち」 「絵を見て語り合おう」 本と友達 読書の部屋 (読④話聞②書①) ■歴史的事実と人物の言動から主題を読み、作品の世界を読み味わうことができる。 ■「フリードルとテレジンの小さな画家たち」の気になる絵を選び、その理由を挙げながら語り合うことで、友達との感想の違いをとらえることができる。 ■本を読み、気に入った一節を引用しながら記録を残すことができる。</p> <p>○話聞(1)ア：考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報に関係付けること。 ○話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ○書(1)エ：引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 ○書(2)ウ：事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。 ◎読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○読(2)ア：伝記を読み、自分の生き方について考えること。 ○読(2)エ：本を読んで推薦の文章を書くこと。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p>	<p>①心に残ったことを出し合う。 ②歴史的事実と叙述に書かれた人物の言動から主題を読み取る。 ③人物の考え方や生き方について、自分の考えを深める。 ④自分がいちばん気になった絵を見ながら、友達と語り合う。 ⑤「絵から聞こえる声」とは、どんな声なのかを考え、出し合う。 ⑥関心のある本やテーマに沿った本を選んで読み、読書の幅を広げる。 ⑦読んだ感想などを発表し合ったり、推薦する本を「私たちのこの一節」としてまとめたりする。</p>	<p>【関心】第二次大戦下のユダヤ人収容所で、個人の尊厳を説き、子供たちに希望をもち続けさせるために絵を描かせたフリードルについてのノンフィクションを読み、自分の考えを深めるための読書に関心をもつとともに、読書生活を豊かなものにしようとしている。 【話聞】本文の読みを通して自分がいちばん気になった絵を選び、その理由を挙げながら語り合ったり、「絵から聞こえる声」について考えたことを出し合ったりして考えをまとめている。 【書く】読んだ本の感想などを基に、心に残った一節を引用しながら、カードにまとめている 【読む】収容所生活を強いられていた当時のユダヤ人たちの置かれていた状況を想像するとともに、そこで生活する子供たちに対するフリードルの働きかけと意思を読み取り、要旨をとらえている。 【読む】読書を通して考えを深め、人の生き方について感じたことを交流したり、心に残った一節を書き出して推薦する本を発表したりしている。 【伝国】ノンフィクションならではの書きぶりに気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
7	2	書き方・まとめ方 「卒業レポートを書こう（予告編）」 (書②) ■テーマを決め、レポートを書くための 計画を立て取材（調査） を開始することができる。 ◎書(1)ア：考えたことなどから書くことを 決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集 し、全体を見通して事柄を整理すること。 ○書(2)イ：自分の課題について調べ、意見 を記述した文章や活動を報告した文章など を書いたり編集したりすること。	①学習の目的やねらいをと らえる。 ②テーマを決めたり、準備の 計画を立てたりする。 ③調べる内容や方法を計画 書にまとめ、取材（調査）を 始める。	【関心】小学校の学習のまと めとして仕上げる「卒業レポ ート」の意義を理解し、まと め上げたいテーマを決め、調 査（取材）計画を立てたり、 資料を集めたりしようとし ている。 【書く】調べてまとめたいテ ーマを決め、計画を立てた り、それに関わる情報を集め 始めたりしている。
9	2	詩を味わおう 「ヒロシマの傷」 「きのうより一回だけ多く」 (読②) ■詩的表現をとらえ、描かれている情景 などを想像し、作者の思いを受け止めな がら工夫して音読することができる。 ◎読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるよう に音読や朗読をすること。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する 感覚などについて関心をもつこと。	①詩の内容や表現で、情景や作 者の思いを想像し、共感でき るところについて話し合う。 ②内容や表現を味わいながら、 詩の良さが生きるように読み 方を工夫して音読する。	【関心】作者の思いをとらえ、 自分の思いや考えを重ねなが ら、詩を読もうとしている。 【読む】作者の思いに加えて、 自分や作者の思いや考えが伝 わるように音読を工夫してい る。 【伝国】効果的な詩的表現をと らえている。
	1	新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①) ■学年配当漢字を読み書きするととも に、前学年で学習した漢字を文中で使う ことができる。 ○書(1)オ：表現の効果などについて確かめ たり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年 までに配当されている漢字を読むこと。ま た、当該学年の前の学年までに配当されて いる漢字を書き、文や文章の中で使うととも に、当該学年に配当されている漢字を漸次書 き、文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を 読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を 使って調べる。 ③既習漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確 かめる。	【関心】漢字に対する関心を深 め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっている か確かめたり直したりしてい る。 【伝国】六年や前学年までに配 当されている漢字を読み書き し、文中で使っている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
9	4	<p>言葉の文化を体験しよう 「狂言 盆山」 「漢詩 尋胡隱君」 (言④)</p> <p>■昔の人も、現代人と変わらない心をもっており、言葉で表現していたことを知ることができる。 ■作品の大体の内容を知り、音読したり演じたりすることができる。</p> <p>◎伝国ア(ア)：親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。 ◎伝国ア(イ)：古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ○伝国イ(イ)：時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p>	<p>①登場人物のこの後のやりとりを考える。 ②狂言を映像で見ながら、声の出し方をまねしたり、役を決めて演じたりする。 ③狂言のおもしろさについて出し合う。 ①本文を読み、漢詩について知る。 ②漢詩「胡隱君を尋ぬ」の内容やリズムを感じながら音読したり、既有的の春の風景と比べたりする。</p>	<p>【関心】日本の伝統芸能である狂言や中国の言語文化である漢詩に関心を持ち、まねて演じたり音読したりして、伝統的な文化に触れ、味わおうとしている。 【伝国】狂言や漢詩のおもしろさや語感などについて出し合い、昔も今も変わらない人の姿やものの見方や感じ方に気付いて音読している。</p>
	2	<p>手紙を書こう 「電子メールや送り状(送付状)の書き方」 (書②)</p> <p>■電子メールの文章や送り状の書き方を知り、書くことができる。 ■手紙に表れる日本語の文化について気付くことができる。</p> <p>○書(1)イ：自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ◎書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国イ(ア)：話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 ○伝国イ(ク)：日常よく使われる敬語の使い方慣れること。</p>	<p>①電子メールや送り状の形式や書き方をとらえることができる。 ②電子メールの文章や送り状を書く相手を決め、その形式に合わせて下書きをする。 ③下書きを読み直し、適切な表現になっているか推敲し、清書する。</p>	<p>【関心】電子メール文章や送り状に対する関心を深めるとともに、手紙文の良さに気付き、その書き方を活用しようとしている。 【書く】相手意識や目的意識をもち、形式に合わせて書くとともに、文章構成や表現の効果を確かめている。 【伝国】書き言葉と話し言葉の違いに気付くとともに、手紙文に表現される形式や敬語などの日本語の文化に気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
9	7	<p>5. 調べたことをレポートにまとめよう 「言語感覚を豊かにしよう」 (書⑥言①)</p> <p>■テーマを決めて調べ、目的に応じて情報を取捨選択し、整理することができる。</p> <p>■レポートの構想に基づいた組み立て表を基に、事例や理由を挙げながら、表やグラフを活用して、レポートにまとめることができる。</p> <p>○書(1)ア：考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。</p> <p>◎書(1)イ：自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。</p> <p>◎書(1)ウ：事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。</p> <p>◎書(1)エ：引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。</p> <p>○書(1)カ：書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うこと。</p> <p>○書(2)イ：自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。</p> <p>○伝国イ(エ)：語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。</p> <p>○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p>	<p>①説明文を読んだり、表にまとめたりすることで、学習の目的やねらいをとらえる。</p> <p>②言葉についてふり返るためのテーマを決める。</p> <p>③目的に応じた調べる方法を決める。</p> <p>④調べて分かったことを整理する。</p> <p>④レポートの組み立てを考え、組み立て表にまとめる。</p> <p>⑤事例や理由を挙げながら、レポートにまとめる。</p> <p>⑥レポートを読み合い、交流し合う。</p>	<p>【関心】テーマを決めて調べ、目的に応じて情報を取捨選択したり、表やグラフを活用したりして、レポートにまとめようとしている。</p> <p>【書く】テーマを決めて調べ、情報を収集整理しながらレポート全体の構成を考え、組み立て表にまとめている。</p> <p>【書く】組み立て表を基に、事例や理由を区別して挙げながら、レポートにまとめている。</p> <p>【書く】文章を読み返し、改善点を助言し合ったり、書き直して工夫したりしている。</p> <p>【伝国】自分たちが使っている言葉の由来や使い方について調べ、言語感覚を豊かにしている。</p>
10	1	<p>言葉のきまり2 「時代による言葉の変化」 (言①)</p> <p>■文語と口語の違いをとらえ、言葉のきまりや仮名遣いが、時代により変化してきたことを理解することができる。</p> <p>○伝国ア(ア)：親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。</p> <p>○伝国イ(ア)：話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。</p> <p>◎伝国イ(イ)：時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。</p> <p>○伝国イ(エ)：語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。</p>	<p>①文語と口語についての理解を深め、文語文を音読するなどして、文語の調子に親しむ。</p> <p>②口語文やその歴史について知る。</p>	<p>【関心】文語と口語に関心を持ち、文語の響きの良さや表記のしかた、口語文の機能性をとらえ、時代による言葉の変化を理解しようとしている。</p> <p>【伝国】文語文を音読して、その表記の特徴と響きの良さをとらえるとともに、口語文の表記の特徴と機能性について知り、時間の経過における言葉の変化に気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	1	漢字の部屋 3 「漢字三字以上の熟語の構成」 (言①) ■三字以上の熟語の構成や成り立ちを確かめることができる。 ◎伝国イ(エ)：語句の構成，変化などについての理解を深め，また，語句の由来などに関心をもつこと。 ○伝国ウ(イ)：仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。	①熟語の構成のしかたを理解し，その成り立ちや変化をとらえる。 ②熟語の意味を調べ，その構成を確かめる。	【関心】三字以上の熟語の構成に対して関心を深め，その構成を調べたり，確かめたりしようとしている。 【伝国】三字以上の熟語の構成について，辞典で確かめるなどしての理解を深めている。
	1	新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①) ■学年配当漢字を読み書きするとともに，前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。 ○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。	①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを，辞典を使って調べる。 ③既習の漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。	【関心】漢字に対する関心を深め，適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか，確かめたり直したりしている。 【伝国】五年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし，文中で使っている。
-	(8)	◆「ジプシーとの約束」 ■事実を押さえて筆者の考えを読み取り，自分の考えをもつことができる。 ■事実を整理しながら，筆者の考えに対する自分の感想や考えを文章にまとめることができる。 ◎読(1)ウ：目的に応じて，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○書(1)ウ：事実と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。	①題名から内容を予想する。 ②カリマンタン島で起きている環境問題について，叙述に即してまとめる。 ③文章の内容から，筆者の主張を読み取る。 ④文章を読んで思ったことを出し合う。 ⑤環境問題についての考えを文章にまとめる。	【関心】カリマンタン島からやってきたジプシーとの約束を果たそうとする筆者の思いをとらえ，自分の考えをもちながら文章を読もうとしている。 【読む】カリマンタン島で起きている出来事とその状況改善のための努力と試みをつかみ，自分の感想や考えを明確にしながら読んでいる。 【読む】文章を読んで考えたことを互いに話し合ったり交流し，自分の考えを広げたり深めたりしている。 【書く】自分の考えが伝わるように，調べた事実と考えを区別しながら発表原稿を書いている。

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
-	(8)	<p>◆「川とノリオ」 ■ノリオとじいちゃんのそれぞれの悲しみと怒りを読み取り、戦争の理不尽さについて考えることができる。 ■主人公に起きた出来事について考えさせ、感想や意見をまとめさせる。</p> <p>◎読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読みだりすること。</p>	<p>①登場人物の心情を想像する。 ②悲しみや怒りと、その原因となる出来事を関連づけて考える。 ③描かれている出来事について、自分なりの感想や意見をまとめる。</p>	<p>【関心】叙述に即して、ノリオに起きた出来事とその心を読もうとしている。 【読む】ノリオに起きた出来事を把握し、その心について想像して、感想や意見をまとめている。</p>
-	-	<p>◆目的に応じて調べよう ■目的に応じていろいろな情報源を活用し、まとめたり発表したりすることができる。</p> <p>○話聞(1)ア：考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。 ○書(1)ア：考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。</p>	<p>①情報を収集する様々な方法とその長短を比較し、目的や意図に応じた方法を選択する。 ②収集した情報について全体を見通して整理してまとめる。 ③発表に際してはエピソードや事例を盛り込む工夫をする。</p>	<p>【関心】自分の課題を解決したいという願いをもち、その解決のために複数の本や情報を多面的に収集しようとしている。 【話・聞】収集した知識や情報を関係づけることができる。 【書く】目的や意図に応じて書く事柄を収集することができる。 【読む】情報をもとに、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p>

平成 27 年度版「みんなと学ぶ 小学校 国語」六年下巻

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	1	<p>「土」 (読①) ■音読を工夫しながら、詩を読み味わうことができる。</p> <p>◎読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○伝国イ(ケ)：比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p>	<p>①詩の内容で、共感できるところを話し合う。 ②音読を工夫しながら、詩を読み味わう。</p>	<p>【関心】作者の視点や感じたことを想像し、自分でも様子を思い描きながら、詩を読もうとしている。 【読む】自分の思い描いた様子が伝わるように音読している。 【伝国】比喩表現に気付いている。</p>
	5	<p>1. 意見文を書こう 「『本物の森』で未来を守る」 (読④書①) ■筆者の提案を理解し、吟味して考えを深めることができる。 ■筆者の提案に対して、自分の立場や理由を明らかにしながら、意見文を書くことができる。</p> <p>○書(1)イ：自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ○書(1)ウ：事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ○読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたしすること。 ◎読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○読(2)イ：自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。 ○伝国イ(オ)：文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。</p>		

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
10	1	<p>言葉のきまり 1 「意味をそえる言葉」 (言①) ■助詞の意味をそえる働きを理解することができる。</p> <p>◎伝国イ(カ)：語感，言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 ○伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①例文を読み比べることで，助詞が意味をそえる働きがあることに気付く。 ②例文にある助詞の働きをとらえ，意味の違いを考える。</p>	<p>【関心】文中における言葉の使い方に関心を持ち，助詞を理解しようとしている。 【伝国】文中の語句と語句との関係や，文の構成をとらえながら，助詞の意味を理解している。</p>
11	2	<p>漢字の部屋 1 「言葉の音の変化」 (言②) ■複合語における音の変化をとらえ，言葉の使い方を考えることができる。</p> <p>◎伝国イ(エ)：語句の構成，変化などについての理解を深め，また，語句の由来などに関心をもつこと。</p>	<p>①組み合わせることによる音の変化を理解し，複合語を作ったり，音の変化や連声を確かめたりする。 ②時代による音の変化をとらえる。</p>	<p>【関心】複合語における音の変化に対して関心を持ち，日常用いている言葉で確認しようとしている。 【伝国】複合語の音の変化への理解を深め，その使い方を身近な言葉の中で確認している。</p>
	1	<p>読むために書く 「読み取り方を考える」 (読①) ■根拠を挙げながら，グラフを読み取り，自分の考えをまとめることができる。</p> <p>◎読(1)ウ：目的に応じて，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながらかんたしするここと。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすること。</p>	<p>①グラフから分かることを出し合い，AとBの見方の根拠を考える。 ②グラフから読み取った事実を基に，根拠を挙げながら自分の考えをまとめる。</p>	<p>【関心】事実とその見方による根拠とを結び付けながらグラフを読み取り，自分の考えを導き出そうとしている。 【読む】自分の見方で情報を読み取ることができることを知り，事実と根拠を挙げるために自分の考えと関係付ける方法を確認して文章にまとめている。</p>
	1	<p>新しい漢字 (書①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを，辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使った文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を深め，適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか，確かめたり直したりしている。 【伝国】六年に配当されている漢字を読み書きしている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
11	7	<p>2. 新しい課題を見つけるために話し合おう 「パネルディスカッションをしよう」(話聞⑦) ■話し合っ てテーマを決め、提案することについての情報を収集、選択して、パネルディスカッションの準備をすることができる。 ■パネルディスカッションの方法を理解し、話し合うことができる。</p> <p>○話聞(1)ア：考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。 ◎話聞(1)イ：目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ○話聞(1)ウ：共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。 ◎話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ◎話聞(1)オ：互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。 ○話聞(2)ア：資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。 ○話聞(2)イ：調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。 ○伝国イ(ク)：日常よく使われる敬語の使い方慣れること。</p>	<p>①学習の目的やねらい、話し合いの進め方をとらえ、多様な角度から意見が出るテーマを出し合う。 ②話し合いたいテーマを選び、提案内容などについて話し合う。 ③話し合いの観点を決め、提案内容や具体的な方法をメモしたり、提示資料を作ったり、役割分担をしたりする。 ④パネルディスカッションを開いて互いの意見を比べながら話し合う。 ⑤話し合いの成果や課題を出し合う</p>	<p>【関心】テーマについて関心をもち、パネルディスカッションに参加しようとしている。 【話聞】学級として話し合いたいテーマを決め、それに沿った提案を選んで、提案内容を深めるとともに、提案に必要な情報を取捨選択している。 【話聞】話の構成を考えた資料を効果的に提示しながら、丁寧な言葉を使い、共通語で発表している。 【話聞】互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合っている。 【話聞】意図がより伝わるには、またよりよい提案にするにはどうすればよいか助言し合ったり、考えたりしてまとめている。 【伝国】敬語について、意識して使っている。</p>
	1	<p>言葉の泉 1 「言葉は変わる①」 (言①) ■時代や世代による言葉の変化を理解することができる。</p> <p>◎伝国イ(イ)：時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p>	<p>①時代による言葉の変化をとらえ、言葉の昔と今の意味を比べる。 ②世代による言葉の変化をとらえ、言葉の書き換えをする。</p>	<p>【関心】時代による言葉の変化に関心をもち、意味を比べたり、書き換えたりしようとしている。 【伝国】時代や世代による言葉の変化を理解し、知識を深めている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
11	4	<p>詩を書こう 「『連詩』を発見する」 「心と言葉をつなげよう」 (書④) ■連詩や言葉の力に対する筆者の思いを読み取る。 ■表現を工夫し、その効果を確認めるとともに、言葉を通してつながり合うために、連詩を作ることができる。 ■感じ方や表現のしかたについて互いに認め合ったり、自他の感性を比べたりすることができる。</p> <p>◎書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うこと。 ○書(2)ア：経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p>	<p>①本文を読み、連詩の方法や形式などについてとらえる。 ②連詩が教えてくれる言葉の力について考える。 ③「宇宙連詩」に込められた作者たちの思いをとらえる。 ④つながりを工夫しながら、友達同士で連詩を作る。 ⑤できた連詩を発表し合い、分かったことや感じたことなどを伝え合う。</p>	<p>【関心】連詩と連詩に対する筆者の思いに関心をもち、作り方を理解して、自分たちでも書こうとしている。 【書く】「人とつながり合う」をテーマに、表現の効果を工夫したり確かめたりしながら、連詩を作っている。 【書く】連詩を発表し合い、表現のしかたやその良さをとらえている。 【伝国】短詩形の表現による語感や言葉の使い方に関心をもっている。</p>
12	5	<p>3. 物語の世界を読み合おう 「きつねの窓」 (読④話聞①) ■語り手の語り方に着目して物語を読み深めたり、別の立場からも読んで自分の読みをつくったりすることができる。</p> <p>○話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ○読(1)イ：目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 ◎読(1)エ：登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ◎読(1)カ：目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。 ○伝国イ(ケ)：比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p>	<p>①主人公の「ぼく」は、どのような人物かを、叙述からとらえる。 ②物語の語り手である「ぼく」の視点で、物語を読み深める。 ③語り手ではない「きつね」の視点について話し合う。 ④視点を変えて読んだ自分たちの読みを伝え合う。</p>	<p>【関心】「ぼく」が現実の世界と幻想の世界を往還する物語の語り方に着目して読み合おうとしている。 【話聞】作品の読みについて、発言者の意図をとらえながら聞き合っている。 【読む】「ぼく」と「きつね」の相互関係をとらえながら、作品を読んでいる。 【読む】語り手である主人公の視点で物語を読み深めたり、別の人物の視点で読み、物語の見え方の違いを比べながら、自分の読みを作ったりしている。 【読む】他の作品の読書経験などを基に、自他の作った読みについて話し合い、自分の読みを深めている。 【伝国】比喩表現とその効果に気付いている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
12	2	<p>読書を広げよう 「本は心の道しるべ」 本と友達 読書の部屋 (読②) ■本を読むことのすばらしさや意義を 考えることができる。 ■読書を楽しむことができる。</p> <p>◎読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を 的確に押さえて要旨をとらえたり、事実 と感想、意見などとの関係を押さえ、自 分の考えを明確にしながら読んだりする こと。 ○読(1)カ：目的に応じて、複数の本や文 章などを選んで比べて読むこと。</p>	<p>①本文を読み、本を読むことの すばらしさや意義をとらえる。 ②自分自身の読書生活と筆者 の主張とを照らし合わせ、これ からの読書生活を考える。 ③本文を読み、紹介された本 のお薦めのところをとらえる。 ④読書を楽しむ。</p>	<p>【関心】本を読むことの意義に ついて考えながら読み、読書生 活を豊かにしようとしている。 【読む】文章の内容を的確に押 さえ、読書に対する筆者の考え を読み、自分の読書生活の参考 としている。 【読む】自分の心や考えを広げ るために、読む本を選んでい る。</p>
1	1	<p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①) ■学年配当漢字を読み書きすると ともに、前学年で学習した漢字を文中 で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確か めたり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該 学年までに配当されている漢字を読むこ と。また、当該学年の前の学年までに配 当されている漢字を書き、文や文章の中 で使うとともに、当該学年に配当されて いる漢字を漸次書き、文や文章の中で使 うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を 読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を 使って調べる。 ③既習漢字を使った文を作る。 ④適正な文になっているか確 かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を深 め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっている か、確かめたり直したりしてい る。 【伝国】六年や前学年までに配 当されている漢字を読み書き し、文中で使っている。</p>
1	4	<p>4. 創作にチャレンジ 「ぼくの・私の物語作り」 (書④) ■登場人物や話の展開を設定して、物 語を書くことができる。</p> <p>◎書(1)ア：考えたことなどから書くこと を決め、目的や意図に応じて、書く事柄 を収集し、全体を見通して事柄を整理す ること。 ○書(1)オ：表現の効果などについて確か めたり工夫したりすること。 ◎書(1)カ：書いたものを発表し合い、表 現のしかたに着目して助言し合うこと。 ○書(2)ア：経験したこと、想像したこと などを基に、詩や短歌、俳句をつくら たり、物語や随筆などを書いたりすること。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対 する感覚などについて関心をもつこと。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな 構成があることについて理解すること。 ○伝国イ(ケ)：比喩や反復などの表現の 工夫に気付くこと。</p>	<p>①本文にある物語やそれがで きあがるまで手順を読み、物語 作りへの見通しをもつ。 ②主題を考え、登場人物を設定 する。 ③大まかなストーリーを考え、 構成表を作る。 ④構成表を基に、物語を書く。 ⑤できあがった物語を読み合 い、その良さなどを伝え合う。</p>	<p>【関心】物語を作ることに関心 をもち、自分の経験を基にした り、空想したことをふくらませ たりしながら創作しようとし ている。 【書く】体験したことや空想し たことなどを基に、「設定」「展 開」「山場」「終結」の構成を 考えている。 【書く】特定の場面を詳しく描 写したり、表現効果の工夫をし たりしながら、読み手に分かる ように物語を書いている。 【書く】作品を読み合い、互い の良さを認め合ったり助言し 合ったりしながら、ものの見方 を深めている。 【伝国】言葉の使い方や文章の 構成、比喩や反復表現などの工 夫をしている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
1	2	<p>言葉で伝えよう 「みんながなっとくする結論を産み出そう」 (話聞②) ■自分の考えを出し合いながら、みんなが納得するような結論をまとめることができる。</p> <p>○話聞(1)ア：考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。 ○話聞(1)イ：目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ◎話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ○話聞(1)オ：互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。 ○話聞(2)イ：調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p>	<p>①本文を読み、学習のねらいや手順をとらえる。 ②手順や約束にしたがって、グループごと話し合う。 ③学習をふり返る。</p>	<p>【関心】特徴や目的・条件などを吟味してみんなが納得するプレゼントにするために、話し合って考えをまとめようとしている。 【話聞】一年生にふさわしいプレゼントをするための条件や品物の特徴を、関係付けながら表に整理して吟味し、選ぶ理由や根拠を挙げながら、計画的に話し合っている。 【話聞】納得できる結論を出すために、場に応じた適切な話し方をしたり、相手の意見を受け入れる気持ちで聞いたりして、自分の意見をまとめている。 【伝国】話し合いの際の言葉の使い方などに気を付けている。</p>
	1	<p>言葉のきまり2 「文末の表現」 (書①) ■文末表現における文の意味や声の調子の違いを理解することができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国イ(ウ)：送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ◎伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 ○伝国イ(ク)：日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。</p>	<p>①例文を比べ、文末表現による意味や調子の違いをとらえる。 ②敬体と常体についてとらえ、常体を敬体に書き換える。 ③適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】文末表現に関心を持ち、意味を比べたり、書き換えたりしようとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】文末表現による意味や調子の違いをとらえている。 【伝国】敬体と常体についてとらえ、常体を敬体に書き換えている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
1	7	<p>5. 私たちのこれからを考えよう 「国境なき大陸 南極」 (読⑤話聞①書①) ■自分の知識や経験を関連付けて、筆者の思いを読み取ることができる。</p> <p>○話聞(1)オ：互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。 ○書(1)イ：自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ◎読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんだりするすること。 ◎読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○伝国イ(オ)：文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。</p>	<p>①筆者の結論をとらえる。 ②結論に至るまでの筆者の思いが深まっていく過程をとらえる。 ③筆者と南極大陸との関わり方について、自分の考え(立場)とその理由を明らかにして発表し合う。 ④「愛地球心」に対する自分たちの考えを出し合い、まとめる。</p>	<p>【関心】南極大陸の特殊性と地球環境に関心をもち、筆者の主張をとらえて読むとともに、自分たちのこれからを考えようとしている。 【話聞】自分の立場を明確にして、互いの考えを発表し合っている。 【書く】「愛地球心」に対する自分の考えを、理由や根拠を挙げて、まとめている。 【読む】筆者の南極大陸に対する考え方と、その考えをもつに至った出来事とを整理しながら読むとともに、そこから自分自身の見方・考え方を導き出している。 【伝国】主張を展開するための効果的な文章の構成に気付いている。 【伝国】南極がどういう土地であるか、語句と語句の関係をとらえながら読んでいる。</p>
	2	<p>書き方・まとめ方 「文章構成の効果を考える②」 (書②) ■効果的な論の進め方についてとらえることができる。</p> <p>○書(1)ア：考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 ◎書(1)イ：自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ○書(1)ウ：事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。</p>	<p>①例文を比べ、読み手にとって、書き手の考えが明確に伝わる構成をとらえる。 ②例示の論の進め方を参考にして、自分の考えを文章にして書く。 ③書いた文章を読み返し、表現のしかたを確かめる。</p>	<p>【関心】効果的な文章構成のしかたに関心をもち、意図に応じた文章構成を知ろうとしている。 【書く】述べ方の順番を工夫するなどの効果的な文章構成について知り、意図的に書き表す方法についての理解を深めている。 【書く】いつも感じていることなど書く事柄を考え、論の進め方に従って書き、文章構成や表現の工夫のしかたを見直している。 【伝国】文章の様々な構成について理解を深めている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
2	7	<p>6. レポートをまとめよう 「卒業レポートを書こう」 (書⑦) ■構成表を作り, 集めた資料を活用して, レポートにまとめることができる。</p> <p>○書(1)ア: 考えたことなどから書くことを決め, 目的や意図に応じて, 書く事柄を収集し, 全体を見通して事柄を整理すること。 ◎書(1)イ: 自分の考えを明確に表現するため, 文章全体の構成の効果を考えること。 ○書(1)ウ: 事実と感想, 意見などを区別するとともに, 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ○書(1)エ: 引用したり, 図表やグラフなどを用いたりして, 自分の考えが伝わるように書くこと。 ◎書(1)オ: 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○書(1)カ: 書いたものを発表し合い, 表現のしかたに着目して助言し合うこと。 ○書(2)イ: 自分の課題について調べ, 意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。 ○伝国イ(キ): 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。</p>	<p>①今までにしてきたことを確認し, それらを基に構成表(プロット)を作る。 ②構成表を基に, 文章を書く。 ③互いの文章を推敲し合う。 ④目次や奥付などを作り, レポートを仕上げる。 ⑤発表会を開く。</p>	<p>【関心】卒業レポートを書き上げることに関心をもち, 今までに集めた資料や書きためたメモなどを, まとめあげようとしている。 【書く】今まで調べてきたことを基に, 全体を見通した構成表を作っている。 【書く】引用したり, 図表やグラフなどを用いたりしながら, 効果的な表現の工夫を考え, 文章を書いている。 【書く】効果的な表現で書かれているか, 推敲し合ったり, 互いのレポートを評価し合ったりしている。 【書く】レポートでまとめたことが明確に伝わるように, 全体の構成や事実と意見の関係を意識して書いている。 【伝国】表現効果を考えた文章構成などを活用している。</p>
	1	<p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①) ■学年配当漢字を読み書きするとともに, 前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ: 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア): 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また, 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き, 文や文章の中で使うとともに, 当該学年に配当されている漢字を漸次書き, 文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを, 辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を深め, 適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか, 確かめたり直したりしている。 【伝国】六年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし, 文中で使っている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
2	1	<p>言葉の泉 2 「言葉は変わる②」 (言①) ■発音と表記の違いや変化を理解し、言葉の仮名遣いに気を付けて平仮名で書くことなどを通して、時代による言葉の変化をとらえることができる。</p> <p>○伝国イ(ア)：話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ○伝国イ(イ)：時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 ◎伝国イ(ウ)：送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ○伝国ウ(イ)：仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p>	<p>①本文を読み、話し言葉の発音と書き言葉の表記の違いや変化をとらえる。 ②仮名遣いに気を付けて、平仮名で書く。</p>	<p>【関心】現代仮名遣いと表記法の変化に関心をもち、的確に使用おうとしている。 【伝国】話し言葉の発音と書き言葉の表記の違いや変化の経緯をとらえ、平仮名で書いている。</p>
	1	<p>漢字の部屋 2 「特別な使われ方の言葉」 (書①) ■教科やある分野の特有の言葉や独特の使われ方を理解することができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①本文を読み、各教科で使われる特有の言葉をとらえる。 ②それらの言葉を使って、短文を作ったり、辞典で調べたりする。 ③適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】特別な使われ方をしている言葉に関心をもち、分類して確認しようとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】教科の中の言葉を使って、文を作ったり分からない言葉の意味を調べたりしている。</p>

配 当 月	時 数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
3	6	<p>7. 自分に照らして考えよう 「その日、ぼくが考えたこと」 (読④話聞①書①) ■主人公が考えたことを自分と照らし合わせながら読むことができる。 ■物語と対話しながら、読み進めることができる。</p> <p>○話聞(1)オ：互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。 ○書(1)ウ：事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ○読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ◎読(1)エ：登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ◎読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○伝国イ(ア)：話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。</p>	<p>①主人公が考えたことや最後はどのように考えるようになったかを読む。 ②難しい問題を「ぼく」が考えていくための設定の工夫を探る。 ③取り上げられた問題に対しての自分の意見をペアやグループで伝え合う。 ④問題に対する自分の考えを、文章にまとめる。</p>	<p>【関心】自分自身とは直接関係のない出来事を見つめる主人公の、考えている様子とその考えに関心を持ち、自分に照らしながら読み進めようとしている。 【話聞】「ぼく」が考えた難しい問題についての自分の意見を、立場をはっきりさせ理由を挙げながら伝え合っている。 【書く】問題についての話し合いを基に、自分の考えを書いてまとめている。 【読む】主人公が難しい問題について考えを進めていく過程の描写をとらえて読んでいる。 【読む】場面設定の工夫などをとらえて「ぼく」の変容とのかかわりを考えるとともに、自分ならどのように思うかを考えている。 【読む】自分の考えが伝わるように音読をしている。 【伝国】話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。 【伝国】伏線のある文章の構成について理解している。</p>
	1	<p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使った文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p>	<p>【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか確かめたり直したりしている。 【伝国】六年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p>

配当月	時数	単元・教材 ■学習目標	学習活動	評価規準
		<学習指導要領との対応>		
3	1	<p>これからのあなたへ 「支度」 (読①) ■作者の思いを想像しながら音読することができる。</p> <p>◎読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p>	<p>①表現から読み取った作者の思いを想像して話し合う。 ②内容を味わいながら音読する。</p>	<p>【関心】作者の思いを想像し、自分の思いを重ねながら読もうとしている。 【読む】作者の思いに加えて自分の思いや考えが伝わるように音読している。 【伝国】短詩形の表現による効果を味わっている。</p>
-	(8)	<p>◆「山へ行く牛」 ■「父」と「島子」、母牛と子牛の別離を、自分自身の出来事として読むことができる。 ■人物の心情を理解しながら音読や朗読をすることができる。</p> <p>○読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ◎読(1)エ：登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○伝国イ(ケ)：比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p>	<p>①出来事と場面の状況から、人物の心情をとらえながら読む。 ②自分なりに感動したことを出し合う。 ③感動した場面を読み合って、感想や感動を深める。</p>	<p>【関心】母牛との別れを「父」との別れに重ね、心の底からの叫び声を島子の思いに寄り添って、物語を読み進めようとしている。 【読む】人と人、人と牛の交流場面の描写と、人物相互の心情の交流を関連づけてとらえている。 【読む】自分の得た感想や感動が表れるように音読や朗読をしている。 【伝国】言葉にならない鳴き声、叫び声で心情を表す表現の工夫に気付いている。</p>
-	-	<p>◆さまざまな表現のくふう 「卒業式」 ■改まった場の表現から、そこに用いられている表現の工夫に気付くことができる。</p> <p>○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つこと。 ○伝国イ(ケ)：比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p>	<p>①声に出して読み、その言葉の響きをとらえる。 ②用いられている効果的な表現とその工夫を確かめる。</p>	<p>【関心】改まった場などに用いられる表現とその効果を確かめようとしている。 【伝国】倒置や比喩・反復などの表現とその効果に気付いている。</p>

※145時間中、129時間を各単元に配当。残る16時間は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」など、必要に応じて補充するよう計画。

【配当時数】

領域	話聞	書	読	伝国	合計
時数	24	46	42	17	129